

## 2008年7月の東北地方の天候

### 【7月の特徴】

- 上旬、中旬の高温
- 上旬の少雨
- 下旬の多雨、寡照

#### (1) 2008年7月の概況

この期間、上旬は北海道の東海上にある高気圧が南西に勢力をのばしたため、また中旬は太平洋高気圧が西日本への張り出しを強めたため、南からの暖かい空気が入りやすくなり気温は高くなつた。上旬は低気圧や前線の影響は小さく、降水量は少なかつたが、中旬以降は上空の寒気の影響で大気の状態が不安定になり、局地的な大雨や雷雨となる日もあった。下旬は上空の寒気の影響に加えて、低気圧や前線の影響により、降水量は多く、日照時間は少なくなつた。特に東北太平洋側では湿った東よりの風の影響も加わり、下旬の日照時間はかなり少なくなつた。

東北北部・東北南部ともに19日ごろ梅雨明けしたと見られ、平年と比べ東北北部で8日、東北南部で4日早い梅雨明けとなつた。

月平均気温は東北地方で高い。月降水量は東北地方で平年並。月間日照時間は東北地方で少ない。

#### (2) 各旬の天候経過

**上旬**：この期間、天気は数日の周期で変わつた。3日から4日にかけてと7日に低気圧や気圧の谷の影響で雨となつたほかは、低気圧や前線の影響は小さく、高気圧におおわれ晴れの日が多かつた。このため、降水量は平年に比べて少ないところが多かつた。

平均気温は東北地方で高い。降水量は東北地方で少ない。日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で多い。

**中旬**：低気圧や前線と高気圧が交互に通過し、天気は短い周期で変わつた。11日夜と14日には、日本海を東北東進した低気圧の影響で、東北北部を中心にまとまつた雨となり、局的に雷を伴つた激しい雨となつたところもあつた。東北太平洋側の南部では低気圧や前線の影響が小さく、降水量は少なかつた。

平均気温は東北地方で高い。降水量は東北北部で多く、東北南部で少ない。日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で多い。

**下旬**：低気圧や前線、湿つた東よりの風の影響により、曇りや雨の日が多かつた。27日から29日にかけては、上空に寒気を伴つた低気圧や前線の影響により大気の状態が不安定となり、各地で大雨による浸水害や土砂災害、雷による停電などが発生した。

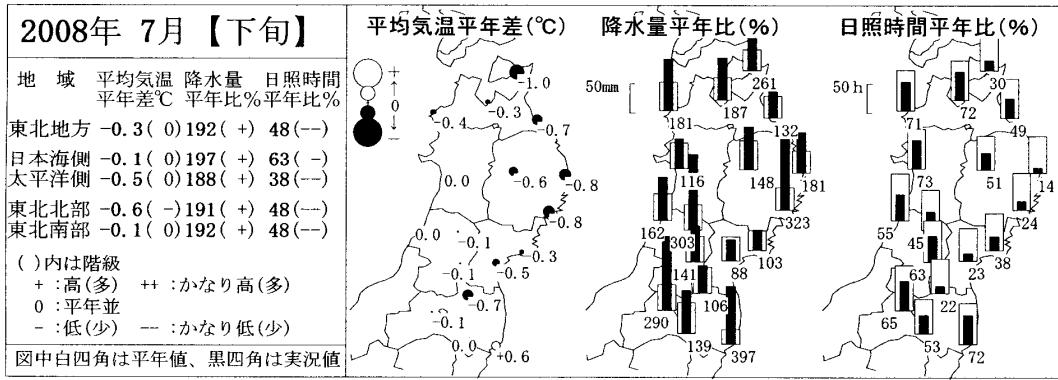
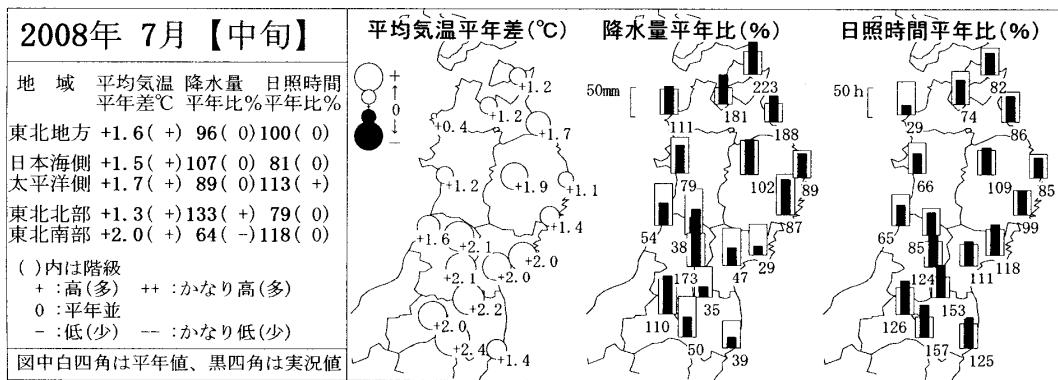
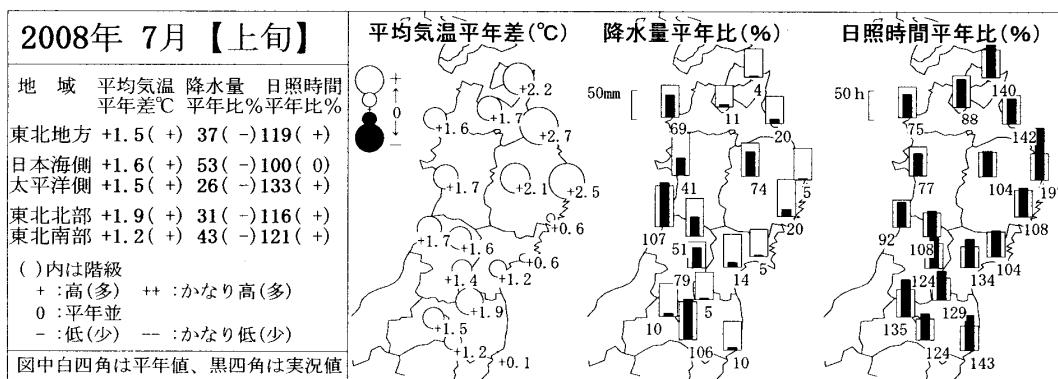
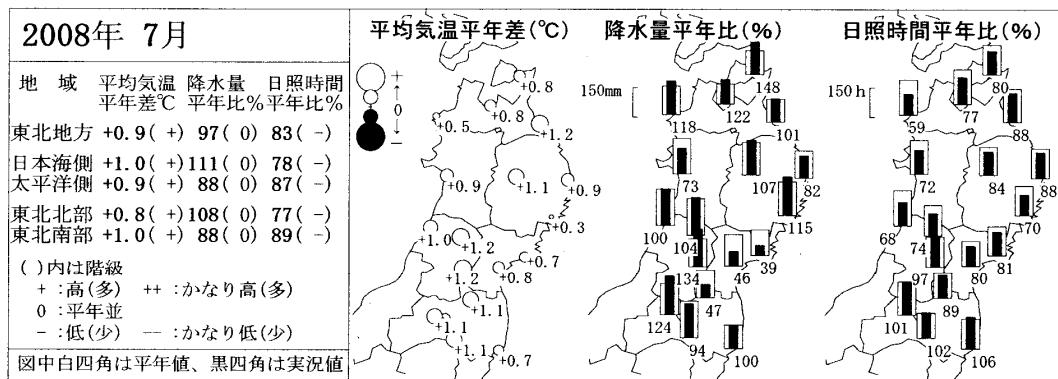
平均気温は東北北部で低く、東北南部で平年並。降水量は東北地方で多い。日照時間は東北日本海側で少なく、東北太平洋側でかなり少ない。

注) 気候統計値は、東北地方にある17地点の気象台、測候所、特別地域気象観測所の観測値より求めています。細分地域については2ページ目脚注を参照して下さい。

平年値の統計期間は1971-2000年です。階級区分については、3ページ目脚注2を参照して下さい。

本件に関する問い合わせ先：仙台管区気象台技術部気候・調査課統計係（電話：022-297-8110）

(3) 2008年7月の月・旬平均(合計)値の平年差(比)



平年値の統計期間は1971～2000年。

注1) 細分地域

東北日本海側：青森県津軽、秋田県、山形県、福島県会津

東北太平洋側：青森県下北・三八上北、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り

東北北部：青森県、秋田県、岩手県

東北南部：宮城県、山形県、福島県

#### (4) 2008年7月の月気候表

地 点 名	平均気温(平年差)		階級	降水量(平年比)		階級	降水日数		日照時間(平年比)		階級
	(°C)	(°C)		(mm)	(%)		≥1mm	(h)	(%)		
青 森	21.9	( +0.8)	+	125.5	(122)	+	9	137.4	( 77)	—	
深 浦	21.8	( +0.5)	○	173.0	(118)	+	14	105.3	( 59)	—*	
む つ	20.4	( +0.8)	+	182.0	(148)	+	7	121.3	( 80)	—	
八 戸	21.4	( +1.2)	+	118.0	(101)	○	12	149.1	( 88)	○	
秋 田	23.7	( +0.9)	+	130.5	( 73)	○	12	123.6	( 72)	—	
盛 岡	22.9	( +1.1)	+	176.5	(107)	○	15	119.6	( 84)	—	
大 船 渡	21.3	( +0.3)	○	196.0	(115)	○	15	105.7	( 70)	—	
宮 古	20.9	( +0.9)	+	114.5	( 82)	○	15	132.0	( 88)	○	
仙 台	22.9	( +0.8)	○	73.5	( 46)	—	13	102.2	( 80)	—	
石 卷	22.0	( +0.7)	○	51.5	( 39)	—	11	120.5	( 81)	—	
山 形	24.4	( +1.2)	+	193.5	(134)	+	14	150.6	( 97)	○	
新 庄	23.5	( +1.2)	+	193.0	(104)	○	15	113.5	( 74)	—	
酒 田	24.2	( +1.0)	+	187.0	(100)	○	14	122.1	( 68)	—*	
福 島	24.6	( +1.1)	○	68.5	( 47)	—	9	118.6	( 89)	—	
若 松	24.5	( +1.1)	+	198.0	(124)	○	15	170.6	(101)	○	
白 河	23.1	( +1.1)	+	176.5	( 94)	○	16	131.4	( 102)	○	
小 名 浜	22.4	( +0.7)	+	121.0	(100)	○	7	162.5	( 106)	○	

(注) 1. 平年値は1971~2000年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

+:高い(多い) ○:平年並 -:低い(少ない)

各階級の区分値は、1971～2000年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる（各階級が10個ずつになる）ように決めた。

また、値が 1971~2000 年の観測値の上位または下位 10% に相当する場合には階級の「+」に \* を付加した。この場合には

かなり高い (多い)

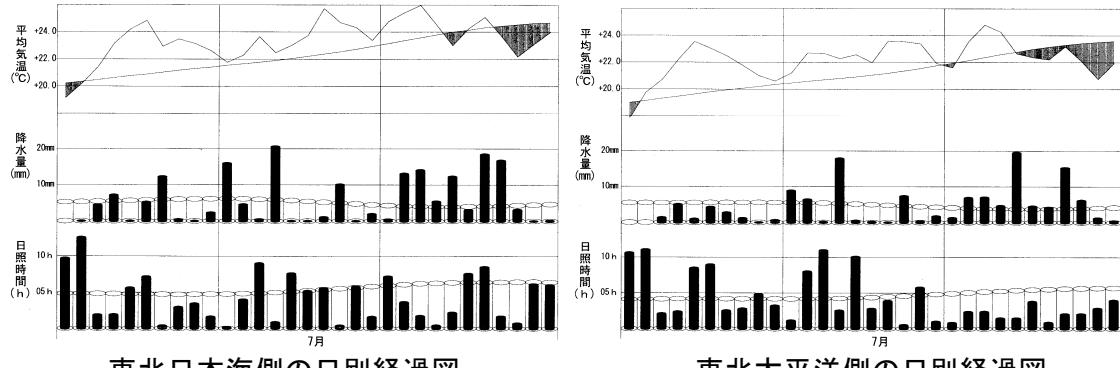
かなり低い（少ない）

と表現できる。

3. 値の横(こ) や ] がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ（日別値）に欠測等が含まれていることを示す。)付きの値（準完全値）は通常のものと同様に扱うことができるが]付きの値（資料不足値）については、値の下に記載した統計日数（統計に用いた、品質が十分な日別値の数）を参考にして、品質を確かめてから使用されたい。

なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

## (5) 2008年7月の日別経過図



気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均（気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱）

## (6) 2008年7月の極値・順位の更新

※順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

月平均気温高い方からの順位更新  
3位以内はなし

月平均気温低い方からの順位更新  
3位以内はなし

月降水量多い方からの順位更新  
3位以内はなし

月降水量少ない方からの順位更新  
3位以内はなし

月間日照時間多い方からの順位更新  
3位以内はなし

月間日照時間少ない方からの順位更新  
3位以内はなし

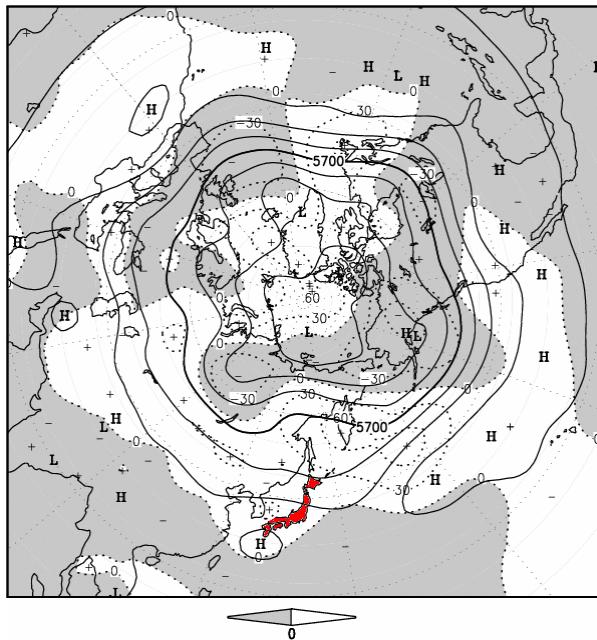
(注) 平年値とは1971～2000年の30年間の値を平均したものである。

## (7) 2008年7月の循環場の特徴

極東域の北緯40度から北緯60度帯は正偏差。カムチャツカの東で正偏差が強く、上旬は地上の高気圧が北海道の東海上から南西に勢力をのばし、暖かい南よりの風が北日本に入りやすくなつた。

九州の南には亜熱帯高気圧の中心があり、中旬以降は西日本中心に太平洋高気圧におおわれたが、日本の東は相対的に気圧の谷となっており、時々上空に寒気が入つたため、大気の状態が不安定になって、雷雨となることがあつた。

東シベリアではリッジが発達し、偏西風の分流がみられ、東北太平洋側では一時オホーツク海高気圧の影響を受けた。



2008年7月の平均500hPa高度

実線は等高度線：60m毎、点線は偏差：30m毎  
陰影部は負偏差（寒気に対応）

## (8) 2008年の梅雨明けの状況（速報値）

平成20年の梅雨明け(速報値)					
地方	平成20年	平年差	昨年差	平年	昨年
沖縄	6月17日ごろ	6日早い	4日早い	6月23日ごろ	6月21日ごろ
奄美	7月2日ごろ	4日遅い	4日遅い	6月28日ごろ	6月28日ごろ
九州南部	7月6日ごろ	7日早い	12日早い	7月13日ごろ	7月18日ごろ
九州北部	7月6日ごろ	12日早い	17日早い	7月18日ごろ	7月23日ごろ
四国	7月4日ごろ	13日早い	19日早い	7月17日ごろ	7月23日ごろ
中国	7月16日ごろ	4日早い	7日早い	7月20日ごろ	7月23日ごろ
近畿	7月16日ごろ	3日早い	8日早い	7月19日ごろ	7月24日ごろ
東海	7月19日ごろ	1日早い	8日早い	7月20日ごろ	7月27日ごろ
関東甲信	7月19日ごろ	1日早い	13日早い	7月20日ごろ	8月1日ごろ
北陸	7月19日ごろ	3日早い	13日早い	7月22日ごろ	8月1日ごろ
東北南部	7月19日ごろ	4日早い	13日早い	7月23日ごろ	8月1日ごろ
東北北部	7月19日ごろ	8日早い	23日早い	7月27日ごろ	8月11日ごろ

注)

- ・梅雨は季節現象であり、その入り明けは、平均的に5日間程度の「移り変わり」の期間があります。ここに掲載した期日は移り変わりの期間の概ね中日を示しています。
- ・「平年」は、平成12年（2000年）までの過去30年の平均（入り・明けを特定しなかつた年は除外）の日付です。